

国際協調主義に期待 2期目を迎えるブッシュ大統領

法学部教授 藤本一美

2004年11月2日に行われた米国の大統領選挙では、現職の大統領で共和党のジョージ・ブッシュ・ジュニアが、連邦上院議員で民主党のジョン・ケリーを接戦の末破り、2期目も政権を担当することになった。また、大統領選挙と同時に行われた連邦上下両院議員選挙および州知事選挙においても共和党は過半数を制し、ここに共和党主導の「政党再編成」が完遂されることとなった。

今回の大統領選挙を通じて明らかにされたことは、米国社会の二極化である。すなわち、保守対リベラル、都市部対農村部、南部対北東部など、米国社会の分断が断層的に深まった感を強くする。実際、今回の選挙において、従来から保守的傾向が強く、テロに強く反対し、イラク戦争に賛成した中西部や南部の広大な地域の農村部はブッシュ大統領が制覇したし、一方、ケリー上院議員は、もともとリベラル色が強く、イラク戦争に反対し、景気と雇用の拡大を求める北東部と西海岸のインテリと労働者の多い大都市部を制した。

ブッシュ大統領の勝因としては、二つの点を挙げる事が出来る。一つは、政権1期目の仕事ぶりである。ブッシュ大統領にとって、今回の選挙は政権1期目の政策とその成果を問われる、いわば一種の「信任投票」のようなものであった。だが、投票者の過半数はこれを支持し、ブッシュ政権の継続を望んだのである。仕事ぶりについては、世論調査の結果によれば、国民の54%が満足していると答えており、この点でブッシュ政権が促進してきた内政及び外交政策は一応信任された形となった。

もう一つは、人格面である。投票者の多くは、ブッシュの有する正直さ、明確性、庶民性及び指導力を買っており、特に「9・11同時多発テロ」以後の「戦時大統領」としての姿勢と行動に大きな信頼を寄せた。これに対して、ケリーの場合は、その姿勢に「ブレ」が目につき若干信頼性に欠ける面が見られた。例えば、ベトナム戦争の英雄でありながら「反戦活動家」となったり、イラク戦争に当初賛成しておきながら、後で反対するなど、言動に一貫性が感じられず、しかもインテリ臭さと取っつきにくさも災いした。

イラク立て直しも緊急課題

ブッシュ政権2期目の課題としては、何よりも、イラク情勢の立て直しである。そのためには、イラク開戦の経緯や占領をめぐって欧州との間で深まった亀裂の修復に努めなければならない。第2の課題は、拡大する財政赤字と貿易赤字の「双子の赤字」の解消である。特に財政赤字が米国経済の土台を揺るがすことのないように努めることである。そして第3に、深刻な様相を呈している「米国社会の分裂」の修復を図り、民主党との協力体制を構築することである。実際、再選を決めたブッシュ大統領は勝利宣言の中で、「新たな任期は、米国民全体とつながりをもつ機会になる。我々是一个の国、一つの憲法、一つの未来を共有している」と述べて、二極化した米国を再び一体化させる決意を示した。

ブッシュ大統領は政権1期目とは異なって、2期目は歴史に名を残そうとして、「思いやりのある保守主義」に基づき、民主党の意向もくんだ「保守中道寄り」の穏健な政策を打ち出してくるものと思われる。特に外交・軍事面ではその感を深くする。今後、米国は世界の国々から尊敬を勝ち得るような行動を取るべきであって、その意味で「国際的協調主義」を積極的に進めていくことを期待したい。

ふじもと・かずみ＝専門分野はアメリカ政治

日本文化を世界に発信

国際間の「ネットワーク利用共同授業」を展開〈学部発信 文学部〉

大学という存在の在り方が問われ、その新たな方向性が真摯に求められている現在、文学部でもさまざまな試みが行われている。今回はその中から、日本文学文化専攻で取り組んでいる「国際間のネットワーク利用共同授業」について紹介したい。

本事業は文部科学省「サイバーキャンパス整備事業」に採用され、03年度(平15)から3年計画で進行中である。主目的はネットワークを介して専修大学の日文専攻の学生と外国大学の日本文学・文化専攻学生または研究者とを結んで授業(日本語を使用)を行うことにあるが、それにとどまらず日本独自の文化を世界規模で発信したいと考えている。まず柱となる「ネット授業」は、外国大学の学生も共に参加する「リアルタイム共同授業」と、ネットワークを通じて外国からの講義を受講する「遠隔地授業」の二種があり、共にリアルタイムの討議に加えて、事前に作成したpptファイルとビデオ映像をシンクロさせた授業コンテンツを活用している。前者は11月に檀国大学と「恋文」をテーマに授業を行い、双方の学生が事前に仕上げたコンテンツを使って成果を競った。後者は、12月にはベネチア大学のMoretti専任講師との間で「イタリアの日本文学研究」講義が行われ、またヘルシンキ大学からRaud教授を迎える。年が明けるとケンブリッジ大学のKornicki教授も授業準備のために来校予定である。情報の発信では「専修大学日本文学文化ネットアーカイブ」と銘打ち、日本独自の文学文化の諸相をシンクロコンテンツに作成しているが、短縮版をネット上で広く公開予定である。04年度(平16)には「日本の王朝文化 賀茂祭」「専修大学図書館所蔵古典籍 散文編」などが作られ、評判を呼んでいる。また学生組織「ネット授業研究会」が作られ、院生の助力を得てPC講習会や情報機器の見学会を行い、自らシンクロコンテンツ作成を試みようとしている。この計画の特徴は、参加教員が日文専攻教員の他に松永助教授をはじめネットワーク情報学部の協力を得ていることである。教員のみならず、両学部の学生たちが新しいコミュニケーションを持つことで、今まで不可能に思っていた新たな道が見えてきたことを記し、日文の学生たちの慣れない情報機器を巡ってのいきいきとした成長をお知らせしたい。

文学部ではこのほか、たとえば日本語学専攻では韓国の湖南大学との間で組織間提携を結び、英語英米文学科では「高校生のための英語学習法」を開催している。人文学科では、社会調査士資格の取得(社会学)や、オープン・リサーチ・センター整備事業「フランス革命と近代のアジアと日本」に加えて公開講座も盛況(歴史学)であり、心理学では「PDAを用いた調査・実験・自習授業改善の試み」が行われ、他にもカリキュラムの改正などが進行中である。今後、このような百花繚乱の試みをどのように束ね、かつそれぞれの個性を伸ばしていくか、文学部は今、大きな分岐点を迎えようとしているのかもしれない。(板坂 則子)

「成功するネットショップ」テーマに4講師が分析

経営学部公開講座



いま注目のネット販売に焦点を当てた「第23回市民と学生のための経営学部公開講座」が、11月13日に生田キャンパスで開かれ、4人の講師が現状と将来について論及。170人を超える参加者との活発な質疑応答が展開された。

今回は「成功するネットショップ」を統一テーマとし、はじめに「生活者とコラボレートするインターネットマーケティング」と題して新井範子経営学部助教授が講演。日本におけ

るネット人口は6千万人を超え、世帯浸透率が78%に達する中で、ネット販売業者が顧客獲得のためにどのようなアプローチ、関係性強化の方法を打ち出しているか、などについて分析。続いて、日本ユニシス(株)右近豊事業開発部マネジャーが「技術から見たeコマースの現状と展望」と題して出品・販売・マーケティングなどにかかわる技術的な問題について提言。山崎和彦オルビス(株)マーケティング部長が、化粧品販売を展開する「オルビス(株)のネットコミュニケーションについて」報告。最後に市田美加(株)アロンジェ代表取締役が、オリジナルアクセサリーなどで成功した体験から「1年で強力なネットショップを作る」秘訣を披露した。

天と地と — 宇宙から深海まで最前線の研究解説

自然科学研究所公開講座



自然科学研究所主催、エクステンションセンター共催の第4回公開講演会「天と地と」が11月6日、生田キャンパスで開催され、学生や教職員、市民ら約70人が参加し、自然科学研究の最前線に関する3講演を熱心に聞き入った。

横山央明氏(東京大学理学系研究科助教授)からは、近年の地上望遠鏡の高度技術化や、衛星による宇宙観測によって得られた活発な太陽活動の様子が、カラー写真やムービーによって克明に紹介された。

また巽好幸氏(海洋研究開発機構・地球内部変動研究センター・地球内部物質循環研究領域長)からは、わが国が新造する世界最高の能力を備えた地球深部探査船「ちきゅう」で深海底の堆積物や岩石を掘り出し、地震発生帯のしくみや過去の地球環境の変動、新たなエネルギー資源など、数多くの新事実の発見・解明に挑戦する統合国際深海掘削計画(IODP)が紹介された。さらに長谷部喜八氏(同センター・運営管理グループ)は、IODPという科学計画を支えるのは、研究者だけではなく、いわゆる文科系の経歴を持つ人が活躍できる場が存分にあるということ、IODPの業務に携わる者の実体験から紹介した。

【ニュース専修2004年12月号4面】